

【高等学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立嬉野高等学校
1 前年度 評価結果の概要	嬉野市に位置する塩田工業高校と嬉野高校が再編され、令和2年度は新嬉野高校の完成年度となる。新嬉野高校は塩田校舎と嬉野校舎からなる校舎制の高校であり、地域に期待され活気に満ちた学校づくりが求められる。そのためには両校舎の教職員の連携・協力体制の構築がより一層必要である。両校舎ともに今までの成果も十分あるが、それぞれ課題もあり、克服していかなければならない。

2 学校教育目標	校訓である「躍動」「練磨」「敬愛」の精神を生かして、専門教育を通した「人づくり」教育を行い、社会で生き抜くために必要な学富力と敬う心を育み、志をもって社会に貢献できる専門技術者の育成を目指す。
----------	--

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 進路目標の早期確立を図り、生徒全員の進路実現を目指す。 専門的知識・技能を習得させ、資格取得や各種大会・コンテスト等への積極的な参加を通して、将来のスベシャリストたる生徒を育成する。 わかる授業、力がつく授業を実践し、教材研究や指導の工夫・改善を行い、確かな学力の定着を目指す。 積極的な生徒指導で、基本的生活習慣(挨拶・服装・頭髪等)の確立と共に、敬愛の心を育み、調和のとれた生徒を育成する。 校舎制による円滑な学校運営を図り、社会に開かれた教育課程に取り組みながら、地区行事や地域ボランティア等に積極的に参加して、地域の期待に応えられる開かれた学校をつくる。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
				達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○基礎学力の向上	○家庭学習時間の調査を行い、毎日の家庭学習の充実を目指す。 ○生徒アンケートにより、わかる授業実施率を80%以上を目指す。	・定期的な家庭生活の記録調査を実施する。 ・わかる授業の実践のため、教師の日々の授業の工夫・改善に努める。	A	・授業に関する生徒対象のアンケートで、肯定的(授業満足度)に回答した生徒約88%。 ・両校舎ともに朝の小テストを実施しており、これにより家庭学習の習慣化がすすんだ。	A	・保護者の立場としては、小テストの実施は大変ありがたい。生徒の基礎力向上と学習意欲の醸成に寄与している。
	○探究心の向上	○専門的教科で資格指導を行い、昨年度合格率比10%アップを目指す。	・各専門教科で積極的に資格指導に務める。 ・昨年度を振り返り、教科で課題を共有し、指導を行う。	A	・危険物取扱者丙種や第一種電気工事士、パソコン利用技術検定は、合格率が30%以上高くなった。 ・商業関係検定で3種目以上1級を取得した生徒7名、そのうち3名は5種目1級取得。両校舎ともに健闘。	A	・難易度の高い資格に複数合格しており、評価できる。今後も積極的に挑戦させて欲しい。
	○ICT機器を活用した授業の実施	○電子黒板、学習用パソコンの教育活動内での利活用率65~70%を目指す。	・校内研修を通し、全職員の取り組みを共有する。 ・遠隔地授業の実践に取り組む。	A	・ICT機器の利活用に関する職員対象のアンケートで、約83%が積極的に活用していると回答。 ・オンライン授業について、緊急対応ができる体制を整えた。	A	・ICTスキルは未来を担う若い人たちの必須スキルである。今後も体制づくりに努めて欲しい。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳教育の全体計画に基づいて授業を行った教員90%以上を目指す。	・人権・同和教育講演会を実施する。 ・「情報」「LHR」において情報モラル教育、進路保障・人権教育を実施する。	A	・本校の道徳教育、人権・同和教育の方針に基づき授業が実施できたと回答した職員96%。 ・人権・同和教育講演会や情報モラル教育、進路保障に関するLHRを計画通り実施した。	A	・次年度も今年度同様「心の教育」はぜひ重視して欲しい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上を目指す。	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に3回以上行う。	B	・いじめ防止や事後処理に対して、組織的な対応ができていないと回答した職員が89%。 ・塩田校舎で3件、嬉野校舎で4件のいじめ認知があった。解消に向けて取り組んでいる。職員研修実施済。	B	・いじめについては早期対応、きめ細かい対応ができていると思う。 ・いじめは社会問題にもなっている。次年度もいじめ問題について注視する必要がある。
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかという感じる」と回答した生徒90%以上を目指す。	・各地域の郷土学習資料や「佐賀語り」等を活用した授業に取り組む。	B	・両校舎ともに「さが語り」を活用しての授業を行った。アンケートでは佐賀県に誇りや愛着を感じる生徒は74%(塩田)、67%(嬉野)であった。今後、さらに魅力のある郷土を伝えていく取り組みを行う。	B	・年間を通した計画的な指導が必要である。 ・一部の生徒の地域体験活動等を全校生徒に還元できれば良い。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒90%以上を目指す。 ○朝食をとって登校する生徒90%以上を目指す。	・生活状況調査、食に関する意識調査を実施する。 ・保健だよりの発行を年間10回以上発行する。 ・健康診断結果に基づく早期治療の指導を徹底させる。	A	・保健だよりに関しては定期的な発行ができ、校内外に発信することができた。 ・朝食及び健康管理に関する生徒アンケートで、肯定的な回答が約92%。地域の協力で、1年生に食育指導を行うことができた。	A	・食育指導において、地域の力を活かすことは良いことである。 ・今年度は、長期間入院するような大きな病気やケガがなく、良かった。
	○健康の保持増進のため体力向上	○健康・体づくり推進プランを実行して、健康保持増進、体力の向上を目指す。新体力テストで各個人が5%得点アップにつなげる。	・新体力テスト実施する。 ・部活動加入率85%(塩田校舎)、75%(嬉野校舎)を目指す。	A	・年度当初の新体力テストは低下傾向であったが、徐々に身体を動かす機会が増え体力が戻りつつある。 ・部活動加入率87.2%(塩田校舎)、80.0%(嬉野校舎)となり、目標を達成した。	A	・部活動を経験した生徒は、体力が協調性も養われている者が多く、入社後もタフである。次年度も部活動に多くの生徒が加わるようにして欲しい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定。 ・学校閉庁日の設定。 ・部活動休業日の設定。	B	・会議の書面開催を取り入れるなど業務の効率化を推進した。また、各部活動における複数顧問による指導の分担を図り、時間外勤務時間を削減(-6時間17分)できた。 ・一部の職員に規定をこえる時間外勤務があった。	B	・時間外業務は昨年度と比較すると減っているが、まだ十分とは言えない。 ・熱意のある先生方の意欲を削ぐことはできないが、少しずつ努力して欲しい。
	○学校行事の精選と効率的運営	○講演会等の行事の精選を行う。 ○従前の行事の偏りをなくすため両校舎で実施する行事の検討を継続して行う。	・合同開催できる行事を2つ以上実施する。 ・あらかじめ、主担当で行事の打ち合わせを行い、計画的に実施できるよう図る。	B	・高校入試、卒業式、入学予定者説明会等、担当間の連携をとり計画的な業務遂行ができた。 ・始業式、終業式は校舎間オンライン配信で行った。 ・合同行事の中止があった。計画・運営についてさらなる検討・見直しが急務である。	B	・今年度はコロナ禍という特殊な1年であったため、行事の縮小や中止が相次いだ。合同行事の計画・運営について今年度引き続き検討して欲しい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
				達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○進路実現100%	○生徒の希望進路への実現	○キャリア教育の充実のための校外研修を行う。	・外部からの専門技術者を講師として招聘する。 ・学校外での就労体験(インターンシップ等)の推進を行う。	B	・コロナ禍で2年生インターンシップは中止、3年生の長期インターンシップは期間短縮で実施した。また、進路指導に係る各種セミナー、説明会などコロナ対策を講じた上で実施した。 ・就職・進学指導について95%が肯定的評価(保護者)。しかし、働くことの意義や自分の進路を考えているかについては、25%の職員が不十分としている。	A	・生徒の進路先を見ると、大健闘だと思う。 ・保護者も含めて地元企業や地元の進路先を知ることが大切だと思う。
○身だしなみ指導とマナーアップ	○社会人として必要な身だしなみ指導推進	○すべての授業、教育活動で身だしなみ・挨拶指導を実践する。	・朝の挨拶指導を定期的に行う。 ・授業前の身だしなみチェック、挨拶指導の推奨。	B	・朝の挨拶、服装指導に徹底して取り組んだ。生徒・保護者は95%がルールを守れていると回答。 ・職員は20%が守れていないと回答し、指導が行き届いていない部分がある。次年度の改善を要する。	A	・生徒はよく挨拶をしてくれる。服装も乱れているとは思わない。
○校舎制による円滑な学校運営	○各校舎間の連携	○分掌業務や部活動等で、連携がとれたと回答した職員80%以上を目指す。	・合同会議やワーキンググループにより、職員間で合意形成・共通理解を図る。 ・学校行事や部活動など両校舎の一体感を醸成する活動を合同で行う。	C	・修学旅行準備や高校入試業務等、協働して行うことができた。また、両校舎間の電話内線化など、環境整備も前進している。 ・今後、さらなる校舎間連携のため、職員の意識改革、両校舎合同の協議、取り組みを要する。	B	・校舎間の連携は、両校舎の学習内容の違い(構造的・文化的な違い)や校舎間の距離(物理的な距離)等があり、難しい問題である。 ・先生方も初めての取り組みが多く、達成できないのはやむを得ないと考える。
○魅力と活力ある高校づくり	○保護者や地域の方の積極的参加	○本年度については、PTA総会の書面議決回答の回収率70%以上を目指す。	・書面議決によるPTA総会の事前連絡および回答提出依頼を文書、スクールニュース等で行う。 ・授業参観は実施できなかったが、学校新聞等で学校生活の様子を保護者・地域に伝えることができた。	A	・PTA総会は書面議決形式で実施したが、校内マラソン大会では、保護者の協力を得ることができた。 ・授業参観は実施できなかったが、学校新聞等で学校生活の様子を保護者・地域に伝えることができた。	A	・PTAにはできることを最大限してもらっている様子である。 ・学校新聞等も評価できる。
	○地域とつながる高校魅力づくり(県指定)	○地域との連携事業を各学科、系列で実施する。	・各学科、系列担当で今までの取り組みを集約し、体系化する。 ・地域との連携、新規の取り組みにつながる事業を検討する。	A	・前期はコロナ禍で活動の制限があり、十分な取り組みができなかったが、後期は学年・系列ともに地域の方々のご協力により、積極的な活動ができた。 ・次年度の事業計画も策定しており、3年間を通した指導体制(学年・系列)が整いつつある。	A	・地域に根付いた活動は両校舎とも大変評価できる。 ・今後も地域とのつながりを絶やさず活動をして欲しい。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・「学力向上」については、概ね目標を達成し高評価である。次年度も魅力ある授業づくりにつとめ、継続的に朝の小テストを実施していく。また、資格取得についても、積極的に挑戦させたい。 ・「心の教育」について、いじめ対応は今後も重要である。生徒の観察やアンケートの実施により、未然防止、早期発見、即時対応が求められる。 ・「健康・体づくり」は高評価であった。部活動の加入について、その意義も含めて次年度も勧奨していく。 ・「業務改善・教職員の働き方改革の推進」については、まだ十分とはいえない。さらなる業務の見直しや業務の効率化を図る必要がある。また、職員の働き方への意識改革も求められる。 ・学校独自評価項目の「校舎制による円滑な学校運営」については、様々な課題があり、解決が難しいものもある。ICT機器を活用したオンライン行事など、できることから取り組んでいくことが必要である。 ・「魅力と活力ある高校づくり」の「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」については、次年度3年目を迎え集大成の年度となる。プロジェクト終了後も継続できる仕組みづくりに取り組まなければならない。</p>
----------------	---